

しらす My Love・湘南しらすは世界一！

－ 神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会・24年の歩み－

神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会

安齊大輔

1. 地域の概要

神奈川県でシラス船びき網漁業が行われている相模湾は、県南部に位置する開放型の湾である（図1）。30余りの河川水が流れ込む一方、黒潮の影響も強く受ける日本有数の沿岸漁場であり、シラス船びき網以外にも定置網、まき網、刺網などの漁業が盛んである。また、湾奥部を中心とした沿岸一帯は「湘南」と呼ばれ、マリンスポーツや観光等で有名な場所でもある。

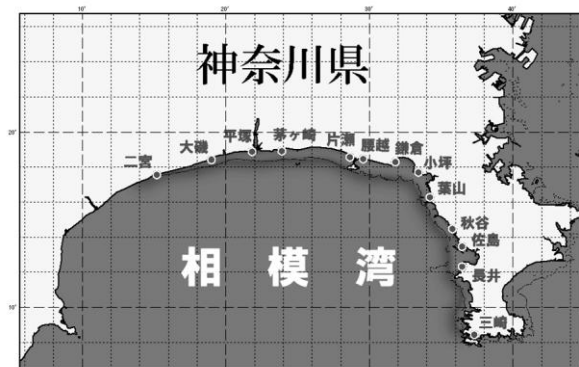


図1. 相模湾とシラスが水揚げされる主な地域

2. 漁業の概要

神奈川県の子ラス漁獲量は、近年では年間 400～600 トンで推移している（図2）。シラスは地引網でも漁獲されるが、その大半はシラス船びき網によって漁獲されている。平成 25 年 12 月現在、相模湾沿岸の三浦市から二宮町にかけ、35 経営体のシラス船びき網漁業者（以下、

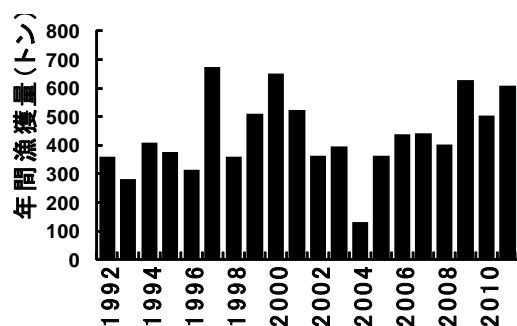


図2. 神奈川のシラス年間漁獲量

シラス漁業者）が漁業を行っている。漁法はすべて 10 トン以下の小型漁船による 1 艘引きで、魚探やソナーで見つけたシラスの群を取り囲むように網を入れ、ネットホーラーで網をゆっくり引いてシラスを漁獲している（図3）。漁期は 3 月 11 日から 12 月 31 日ま

での約 10 ヶ月間で、例年 4～5 月頃（春シラス）と 7～10 月頃（夏・秋シラス）に 2 つの漁獲ピークがある。

神奈川県シラス漁業者の大部分は、シラスを漁獲・水揚げするだけでなく、自ら獲ってきたシラスの自家加工・販売まで行っている（図 4）。主な製品は、釜揚げシラス、シラス干し、たたみいわし等で、そのほか獲れたての新鮮な生シラスなども人気がある。これ



図 4. シラス加工の様子



図 3. シラス船びき網

らの製品は地元に出荷することもあるが、大半は自らの直売所で販売を行っている。

このようにして漁獲・加工される相模湾のシラスは「湘南しらす」と呼ばれ、品質向上を目指す県内の農林水産物「かながわブランド」や「神奈川の名産 100 選」にも選定されている。

3. グループの組織と運営

平成元年 9 月、神奈川県シラス漁業者を構成員とした「神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会」が設立された。設立の目的は「しらす船曳網漁業の生産性を高め、漁家の経営改善に資するため、会員の啓蒙ならびにその交流を図ること」（協議会規約第 1 条）であり、これまで漁業技術の研究、技術の交流促進、漁業資源の調査・研究などの事業を行ってきた。

4. 研究・実践活動の取組課題選定の動機

このように各地で販売され、名前も浸透してきた「湘南しらす」であるが、どこで販売されているのか、そもそも「湘南しらす」とはどのようなものか等といった基本的情報が、消費者に充分届いているとは言えない状態であった。このため近年では、「湘南しらす」をきちんと理解してもらい、より楽しんでもらうための PR 事業に力を入れるようになってきている。

5. 研究・実践活動の状況及び成果

これまで協議会で実施してきた主な事業は、以下のとおりである。

(1) 試験研究事業

春シラス漁況予測のため、県水産技術センターが実施している禁漁期調査へ協力しているほか、平成 18～20 年には沖合操業の可能性を探るため、沖曳漁獲試験調査を実施した。また東日本大震災以降は、シラスの放射性物質検査も毎年行っている。

(2) 県外視察調査

会員の情報収集を目的に、他県の水産関連施設（漁網会社、試験研究機関、直売施設等）の視察旅行を毎年 1 回実施している。

(3) 漁業者研修会

会員の資質向上を目的に、シラスの漁況予測や製品の衛生管理等に関する研修会を年 2 回開催している。

(4) 「湘南しらす」の P R ・ 普及活動

「湘南しらす」の「のぼり」や「ミニのぼり」の作成、ブログ「湘南しらす★情報局」による会員の直売所情報や活動の紹介、シラス料理を紹介する「湘南しらすを 100 倍楽しむレシピ！」の作成



図 5. シラス料理のレシピ

(図 5)、協議会公認ソング「しらす My Love」による P R など、様々なメディアを活用して「湘南しらす」のイメージアップを図っている。また毎年 4 月 30 日を「シラスの日」（4 月最終日＝しがつラストの日＝シラスの日）と定め、「湘南しらす」のより一層の普及に努めている。

(5) 新製品の普及

平成 24 年、協議会会員の一人が鎌倉の料理研究家と共同開発した「シラスの沖漬け」は、獲れたてのシラスを船上で特製のタレに漬け込んだ新製品で、現在多くの会員が作成、販売するヒット商品となった（図 6）。



図 6. シラスの沖漬け

6. 波及効果

(1) 組織率の向上

協議会設立当時、33 名だった会員はその後増加しつづけ、平成 25 年現在では 46 名となっている（図 7）。また設立当時は、協議会に加入しない地域もあったが、現在ではすべての地域の漁業者が会員となっ

ている。さらに、近年新たにシラス漁業を開始した漁業者も、すべて協議会に入会している。

(2) 「湘南しらす」の認知度向上

PR活動の成果として、「湘南しらす」のテレビ、新聞、雑誌への登場も増え、年間20～30件程度取り上げられるようになった。また消費者を生産現場に案内するモニターツアーや、各種の講演会などにシラス漁業者が登場する機会も増えてきている。

(3) 会員の団結力アップ

県外視察や研修会等の活動を通じて、普段はライバルである会員たちの間に仲間意識が芽生え、会員全体で「湘南しらすをもっと盛り上げていこう！」という機運が高まってきた。また会員間の情報交換や、新規参入者への技術指導等も活発になってきている。

7. 今後の課題や計画と問題点

偽装品対策として、数年前から「湘南しらす」の地域団体商標の登録に取り組んでいるが、会員が複数の地域にまたがっていること等から、いまだ商標登録にはいたっていない。また「シラスの日」については、全国的な展開も視野に入れながら、今後どのように普及していくか検討する必要がある。さらに食の安全安心が求められる昨今においては、より一層の衛生管理も必要になると考えられる。

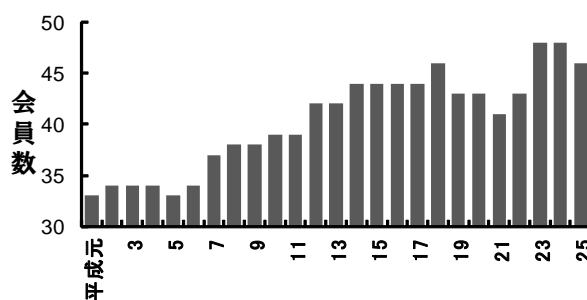


図7. 会員数の変化



ブログ「湘南しらす★情報局」
<http://sea.ap.teacup.com/sirasu/>



公認ソング「しらす My Love」
http://youtu.be/Q_gICDpmeWg